

共生力

HP: <http://www3.ocn.ne.jp/~koryu/>

Tel: 03-3222-4190 Fax: 03-3222-4199

〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-3-9 第2太陽ビル 3F

発行人: 黒田文男

第5回易県音楽教師養成研修

協会から8名の代表団が参加

中国宋慶齡基金会との共同プロジェクト第5回易県音楽教師養成研修（音楽教師培訓）が、中国河北省易県で、8月19日から3日間にわたって行われました。5年目の節目を迎えたということで、当協会からは、黒田文男代表理事、吉田一徳業務執行理事のほか会員組織代表を合わせて8名の代表団が研修に参加しました。

開会式では、初めに主催者を代表して易県人民政府、趙春生県長から、教育支援に対する感謝とともに、この貴重な機会に自分の専門的素質を高めて、生徒たちが、すくすく成長できるようがんばってくださいと、挨拶がありました。 ↓研修の様子



中国宋慶齡基金会連絡部、陳愛民部長からは、宋慶齡主席の「明日のために、子供のために」という主旨のもと、農村での基礎教育と教師素質の引き上げに力を入れている、音楽教育もその一環であり、生徒たちが、より専門的な音楽教育が受けられ、音楽への夢を持てるために、より多い専門研修の機会を提供したいと、挨拶がありました。

黒田代表理事は、音楽は歴史や文化の理解に欠かせない基礎的な教科であり、研修を通じて、皆様が音楽教育に一層励まれ、子どもたちの教育水準の向上と、未来の日中友好に寄与されることを心から祈

っていると、挨拶しました。

研修は、河北省メディア学院から、劉礼民音楽工学部主任ほか、5名の講師を招き、小学校と中学校の2グループに分かれて行われました。今年度支援した電子キーボードも参加者各人に用意されていました。

また、代表団と参加教師の代表10名とで、懇談会を行い、易県での音楽教育の現状、日本の音楽教育の状況、電子キーボードの活用などについて意見交換をしました。3日間の研修は、声楽の基礎、発声、キーボードによる即興演奏、授業への応用などの内容で行われ、約100名の教師が参加しました。

易県第一小学校、易県大龍華中心小学校訪問

代表団は、参加教師との懇談後、研修会場の易県第一小学校と、郊外にある大龍華中心小学校を訪問しました。



大龍華中心小学校→

←易県第一小学校

第一小学校では、児童代表による学校紹介や施設の案内、楽器演奏などの歓迎を受けました。大龍華中心小学校では、伝統的な文化を子どもたちに伝えるために夏休みに行っている、体操で表現した論語の朗読を披露してもらいました。

中国宋慶齡基金会を表敬訪問

8月20日、協会代表団は、宋慶齡故居を見学し、中国宋慶齡基金会を表敬訪問しました。井頓泉副主席はじめ、基金部、国際部の方々に迎えていただき、親しく懇談させていただきました。

前、中日友好協会副会長であった井頓泉副主席からは、プロジェクトへの支援に対する感謝に続けて、易県の子どもたちは、きっと中日友好の力になるでしょう。同じアジアの同胞として、建設的な友好関係を共同でつくっていききたいとの言葉がありました。



井頓泉副主席（右）と黒田代表理事

宋慶齡基金会教育代表団と教育交流

11月 三重県で

11月5日から10日まで、第三次宋慶齡基金会教育代表団を三重県に迎え、教育交流を行います。

7日の学校訪問、音楽授業の参観、意見交換会をはじめ、日本の教職員との交流会、三重県庁への訪問などを予定しています。

第7期安東自由大学

東アジアの教育をテーマに盛んな論議

9月1日から6日まで、第7期安東自由大学が慶尚北道の首都となる予定の安東市で開催されました。日本からは、安東自由大学教育学部11名（芹沢秀行団長・神奈川、田沢憲事務局長・山梨）と文化教養学部9名、計20名が参加しました。今回は中国から新たに3名が参加し、地元安東市からの30名を加え、「アジアの義務教育」について東アジア各国の課題を出し合い、活発な討論を行ないました。

開会に当たって、権重東安東自由大学名誉総長から、基礎教育は社会で一番大切にされるべきであると挨拶がありました。

初岡昌一郎運営委員長から、安東自由大学の歴史的意義の確認と支えていただいている安東市はじめ安東市民の皆さんへの感謝が述べられました。また、鄭亨鎮国立安東大学総長が歓迎の祝辞を述べました。

日本からは、重松清文氏（元東京公立小学校長）が「学力問題の背景にあるもの」と題し、日本の義務教育の課題について報告し、学力格差が、地域共同体や家族のありかたと密接な関係があることを指摘し、学校間競争や各家庭の教育力に任せるのではなく、地域格差の改善や指導力の高い教師の育成の必要などが指摘されました。中国からは白立文氏（教育工会）が、中国の義務教育の実態を具体的に報告すると共に、地域格差の実態、農村と都市出稼ぎ農民に同行する子どもの実態を報告しました。韓



国からは権英俊氏（安東大学名誉教授）が、韓国の家族のあり方や人との繋がりを紹介し、「受ける人が亡くなくても、孝を尽くす人が生きている限り大切にされなくてはならない」と述べ、「孝」教育を提唱されました。参加者の活発な討論ののち、権名誉総長は、差別なく教育を受けるという中でこそ安東自由大学も発展する。教育の基本的な価値である自由、人権を議論し、永遠な教育の価値を保つために来年も同じテーマにすることを提案すると述べました。

9月6日、教育学部一行は、公立臥龍初等学校（権在度校長）を訪問し、韓国のスマート教育の一端を

参観しました。

過疎地域ということもあり、全校生徒74名＋幼稚園児19名という小規模学校でしたが、ここ数年国のデジタル教育・英語教育のモデル校として研究を進めている。5月には、「大韓民国 素晴らしい学校」にも選定されたそうです。芹沢団長は、「子どもの幸せのためには、教育が鍵を握っている。国際交流の柱は教育にある」と挨拶しました。

参加者は、国学文化会館（国学とは儒学をさす）に宿泊したほか、河回村、陶山書院など、儒学の聖地といわれる安東市を参観し、河回村では世界文化遺産の「仮面劇」に参加体験するなど、安東自由大学のもつユニークな研修を十分に修めました。

※スマート教育 … 韓国政府は、デジタル世代の登場によって、個人の素質に合わせた教育方法への転換が求められるとして、2016年度からの実施を目標にデジタル教科書等の開発支援を行なっている。



第2回教育交流ホームステイ in 山梨

元気いっぱい・感激いっぱい



第2回教育交流ホームステイ in 山梨が、8月17日から19日まで、暑さ真っ盛りの山梨県で行なわれました。中国からの留学生5名は山梨の教職員のご好意を受け、2泊3日の有意義なホームステイを過ごしました。昨年に引き続いての山梨開催でしたが、天候にも恵まれ、参加者たちはホストファミリーの心づくしの歓待を受け、日本の文化を満喫すると共に、一生心に残るであろう国際交流、人と人との交流を体験しました。

学生の一人は次のような情景を伝えています。「でも様々な理由のために、甲府サッカーチームは試合に負けました。本当に残念でした。私はいつも甲府チームを応援します。家へ帰る途中で花火が見えました。ロマンチックでした。夜飯を済ませた後、携帯電話のソフトで私の両親とKさんの家族が会話を楽しみました。言葉の壁があっても、とても楽しかったです。私の母は大連に住んでいて、画面を見ながら、仲良くしてくれてありがとうございます、と中国語で言いました。」（原文の一部ママ）